

平成26年度 徳島県立辻高等学校「学力向上実行プラン」

1 本年度の重点目標

<p>①基礎学力の定着を図るとともに、さらなる学力の向上をめざす。</p> <p>②分かる授業を実践し、常に授業方法の改善を行う。</p> <p>③家庭での学習習慣を身につけさせる。</p>

2 学力向上のための実行プラン

年次	学科	前年度の改善点	本年度の目標	具体的な教員の取組	評価
全	普通	○4月に実施したベネッセの基礎学力診断テストでD3該当者が 1年 → 35人/101人 2年 → 18人/99人 3年 → 14人/109人と基礎学力の定着が不十分な生徒が全体の22%であることが分かった。	<p>①1・2年生実施の11月と4月実施の基礎学力診断テストでD3該当者を全体で40人以下(全体の20%以下)にする。</p> <p>②一人あたりの検定受検回数3回以上 各種検定の合格率を上げる</p>	<p>①-1 全学年実施のマナトレ数学で 1年：基礎編 90%以上合格 2年：標準編 80%以上合格 1・2年実施のラレボ国語の確認テスト平均80点以上となるように進路課が主となり学年単位で取り組む。 ①-2 課題の内容を精査する。 a.生徒の習熟度に合致した内容や課題の解き方なのかを各教科で学期に1回教科会を実施して確認する。 b.課題が未達成な生徒のフォローは各教科と各学年団で連携して行う。</p> <p>②-1 生徒のコースや進路希望、習熟度に応じた受検機会や受検級を的確にアドバイスする。 ②-2 普段の学習内容と検定の受検級の関連性が分かるようにアドバイスする。 ②-3 生徒の学習が滞らないよう a.特別補習を計画的に実施。 b.各種検定の担当者が誰が受検するのかを担任や部活動顧問に通知する。 c.各種検定の担当教科で分担して、担任や副担任と連携して受検生徒のサポートを行う。 ②-4 資格試験カレンダーを教室に掲示して、手帳に記入するなど早めに学習にとりかかるように促す。</p>	4 3 2 1
					<p>①年度末の授業評価アンケートで復習をしている → 50%以上にする。</p> <p>②教科会と学年会を年3回以上実施する。</p>
全	普通	○昨年度実施の授業評価アンケートで復習をしている → 31.7%であった。			

				<p>いての共通理解をはかり授業改善に活かす。</p> <p>②-3 学年会を各学期に1回実施し、マナトレ数学・ラレボ国語の指導状況や能率手帳の利用状況について共通理解をはかり、生徒の実態把握に努め、教科との連携をとりやすくする。</p>	
全	普通	<p>○家庭学習時間調査の平均は全平均</p> <p>→ 1.9時間</p> <p>2時間以上</p> <p>→ 53.8%</p> <p>1時間未満</p> <p>→ 15.4%</p> <p>と定期考査直前の学習時間としては改善が必要である。</p>	<p>①家庭学習時間調査を全体平均</p> <p>→ 2時間以上</p> <p>2時間以上</p> <p>→ 60%以上</p> <p>1時間未満</p> <p>→ 15%未満</p>	<p>①-1 能率手帳を全学年で有効活用する。</p> <p>a.各学年で週1回は必ずチェックし、書けていない生徒には指導する。</p> <p>b.毎月の行事予定を生徒に手帳に記入する時間を各HRで月1回とる。</p> <p>c.学期に1回模範となる手帳を掲示し、参考にする。</p> <p>d.日々の課題を手帳に記入できるように各教科と担任で連携をとる。</p>	4 3 2 1
			<p>②全平均学習時間を70分以上</p>	<p>②-1 学習時間チェックシートを用いて毎月の平均学習時間を生徒自ら把握し、目標を持って学習できるよう促す。</p> <p>②-2 課題や小テストを分散して、平日に生徒が効率よく学習する機会をつくる。</p>	

3 全体評価

	評 価
	4 3 2 1

4 学力向上検討委員会構成

	職名・校務等担当名	氏 名
管 理 職	教頭	前田 芳人
学力向上推進員	教諭	永野 秀和
委 員	教諭	藤井 米子 矢野 和世 板谷 昌世 久保 八恵 藤岡 清人 中野 光代 向井 佳子 藤田 隆和 辻岡 英司 平尾 美香 古田 美和 岡田加代子 宮本みゆき 石川 亜紀